

モトスミ・ブレーメン通り商店街

(モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合)

神奈川県川崎市

！取組のポイント

好評であったポイント事業の現状に慢心することなく、地域課題の改善に向けた改良も加えた独自のサービスを提供することで、さらなる飛躍。

取組の背景

コミュニティ活性化が課題

これまで実施していたポイント事業は、消費者だけでなく商店街や各店舗の収益になる事業として好評を得ていた一方で、老朽化による機材トラブルの多発や専用端末が高額なため店舗数増加の対応が困難なことなど、課題が顕在化していた。また、モトスミ・ブレーメン通り商店街を含む中原区の70歳以上の人口は多く、2003年頃から、「高齢者の孤立の防止」や「コミュニティの活性化」といった地域住民の安心・安全に貢献する事業が求められていた。さらに、一つ隣の武蔵小杉駅では有数のターミナル駅としての再開発で高層マンションの建設ラッシュが起ころ、それにともない相次いで大型の商業施設がオープン。商店街としては、一層地域に密着した取組を進めていく必要性があった。

取組の内容

ポイントを様々な形で消費者に還元

ポイント事業のリニューアル（ICブレカの導入）を行い、以前使用していた専用端末機を汎用機のタブレットへ変えた。100円で1ポイントを付与し、1ポイント1円から利用できるようになったため、消費者にとってはメリットがある。店舗は1ポイントを1.8円で購入し、回収すると10%上乗せして1.1円で精算する。その差分0.7円を運営費として商店街の各種事業が展開され、様々な形で消費者へ還元されている。

ポイントはクラウドサーバーで管理し、商店街側として市場にどれだけのポイントがあり、日々の店舗がどれだけのポイントを付与・回収したかが把握できるようになっている。ポイントの管理や精算ミスなどが起こらなくなり、運用面での大幅な改善が図られた。

また、高齢者の外出促進策として、商店街のコミュニティセンターへの来訪者に1日1ポイントの健康ポイントを付与しており（健康ポイントブレカステーション）、散歩の動機付けを行うとともにコミュニティセンターでの交流促進などを図っている。

ポイントカードと連動しているIC付きブレカストラップは家族で利用できるようになっており、買い物を通じて子ども達が店主との会話やタブレットに搭載されている商店街のゲームを楽しむなど、コミュニティの輪に子ども達が自発的に加わることができる機会を提供している。

これらICブレカを導入したことにとまなう交流などから商店街を一層身近に感じてもらい、武蔵小杉駅周辺の高層マンション群の住民らも商店街に足を運んでもらえるイベントを実施していくことで、地域コミュニティの核としての商店街の存在感を強めていけると考えている。

ポイント事業に係るタブレット端末と加盟店証



健康ポイントブレカステーション



取組の成果

1日60人を超える高齢者がコミュニティセンターに来訪

ICカードの発行は2万枚以上となり、多くの方に商店街が浸透していることがわかる。

また、高齢者へのコミュニティセンターでのポイント付与状況により、「高齢者の孤立の防止」や「コミュニティの活性化による安心・安全な地域づくり」の成果を測ることが可能となっている。現在は、1日60人を超える高齢者がコミュニティセンターを訪れており、さらに増加する傾向にある。

さらに、有料のIC付きブレカストラップは500個以上利用されており、商店街での買い物を身近なものにしたいと思われていることがうかがえる。汎用性の高いタブレットというインフラを整備したことで、煩雑な精算事務から解放されたことに加え、ICカードを利用した販売促進イベントを実施するなど、次世代での活用の方向性も見えている。

実施体制

事務局専任として常勤の職員とアルバイトを雇用しており、4人体制で運営している。ポイント事業はナショナルチェーンも登録しているほど、店舗や消費者に浸透しており、運用すれば運用するほど収益が上がる事業である。

また、駐車場の運営や商店街内CM放送などの会費外収入により、商店街として持続可能な事業運営が可能な体制となっている。

ポイント移行風景



基本データ

所在地	神奈川県川崎市中原区木月
人口	約25万人(川崎市中原区)
電話/FAX	044-422-3626
関連URL	http://www.bremen-st.com/index.html
会員数	181名
店舗数	160店舗(買回り品小売店25、最寄品小売店36、飲食店33、サービス店21、その他45)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	主婦、家族連れ、高齢者

キーパーソンからのコメント

モトスミ・ブレーメン通り
商店街振興組合
理事長 伊藤 博



従来のシステムを根本から変える

「ブレカポイント」のカード端末の老朽化にともない、後継機種について検討していたところ、秋田県鹿角市から、市販されているタブレットによるポイントシステムの情報を聞き、コスト面でも汎用性でも優れていると確信しました。

ただ、全国の商店街のポイントシステムが低迷している最大の要因は、端末の良し悪しではありません。

当商店街では、従来の商店街のポイントシステムを根本から変えて、ナショナルチェーンが参加するポイント事業を作り上げました。

タブレットの可能性に注目

このタブレットを使ったポイントシステムは、広域で展開することが容易です。事務局のない商店街の集まりや商店街以外の店舗の集合体などでもポイントカードシステムを実施することができます。

また、タブレットを使ったイベントや、アプリケーションの活用(商店街に来られる外国人に対してメニュー等を多言語表示するなど)、無料Wi-Fiなどの施策を展開することで、さらなる商店街の活力へとつなげていけると考えています。

商店街概要

1947年住吉商興会として発足し1975年に元住吉西口商店街振興組合として法人化する。1990年、モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合に名称変更し、1991年、ドイツ・ブレーメン市のロイドパサージュと友好提携合意する。以降、物的交流・人的交流などを続けながら、ドイツの特徴を活かした取組を行っている。

商店街は、元住吉駅から全長約550m西に広がっている。元住吉駅は渋谷と横浜のほぼ中間に位置し、どちらに行くにも約20分という通勤・通学のアクセスが良い場所にある。